

- * 「この方はもともとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。この方はご自分のくんに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。」（ヨハネ1：10～11）2千年前にイエス・キリストは来られ、救いの道を示されたが、ユダヤ人にはほとんど受け入れられなかった。それどころか、苦しめられて十字架につけられてしまう。しかし、この福音は小アジアからヨーロッパの異邦人に驚くべき勢いで伝わり、東アジアの片隅の日本にも伝えられた。現在のところ日本のクリスチャン人口は1パーセントにも満たない。しかし、否定的にならずに、私たち1パーセントが「存在する」ことに目を向けて、感謝してキリストを証ししていくことが大切であると思う。
- * 「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」（ヨハネ1：10～13）当時も受け入れた人は少数ではあるが、いたのである。その人たちは大きな祝福を受けた。「名」とは、その人の本質、全存在を表わす。「その名を受け入れる」とは。イエスはキリストであるということ信じることである。イエスは私の救い主であると確信することである。そうすれば、どんな人でも例外なく「神の子どもとされる」のである。
- * 聖書では、「救われる」とは「罪が赦され、永遠のいのちを得る」ということ。ヨハネはその内容を「神の子ども」ということばであらわした。「神の子ども」になるとは、世に属する者から神に属する者（神のもの）に変えられる。神のふところに抱かれてその深い愛によって養われ、神の家族として、神とともに生きることができるようになるのである。人間の血筋や思いから子どもになるのではなく、神のみこころによって子どもにされるのである。
- * クリスマスのとき、この御子が私の救い主であることを受け入れよう。霊的な闇から抜け出そう。永遠のいのちに生きよう。すでに神の子どもとなっている者は常に感謝のころをもって喜びをあらわし、子どもにふさわしく生きていきたい。